

## 経営のヒント85 新卒の離職率

### 親の庇護がフリーターを生む！

日経 BP のメルマガより、興味ある記事がありました。日本学生支援機構の調査によると、子どもが私立大学に通う場合の親の教育費負担（4年間）は、自宅通学が約490万円、下宿暮らしでは約790万円にも膨れ上がります。こうした膨大な教育費は、年功序列賃金制度が終焉して収入が増えない親の老後までも脅かす危険性があります。このように親が苦労して教育費を負担した結果はどうでしょうか？ 青少年白書によると、学校を卒業した若者が3年以内に離職する割合は中卒72.2%、高卒48.6%、大卒34.7%と驚くほど高くなっています。実践経験も積まないまま早期退職した結果、正業には就けず、フリーターやニートになる若者が増えています。

#### ●平成14年3月卒業者の離職率

学歴	1年目	2年目	3年目	合計
中学校	47.5%	15.9%	8.8%	72.2%
高校	25.3%	13.9%	9.4%	48.6%
短大・大学	15.0%	10.8%	8.9%	34.7%
大学・大学院卒の主な離職理由	・自分に合う仕事を見つけるため ・就きたい仕事への準備や勉強のため			

自立規範が比較的弱い日本社会では、子供が親から独立することをさほど要求されません。むしろ子供を苦労させまいと、親が長期間サポートする傾向が強いと言えます。このような親による経済的援助が、いわばセーフティネットの役割を果たし、子供の自立を遅らせている原因にもなっています。親の庇護の下で育った子どもは、就職にあたって、自分のやりたい仕事を決められないままに有名企業や高収入の就職先を選んだ結果、就職後に職業観や価値観のミスマッチを感じて早期離職をしてしまいがちです。こうしたことにならないためには、親の経済力とは関係なく、子供の自立のために、あえて子供にも教育費の負担をさせるべきではないかと考えます。

企業にとっても新卒で採用したが、3年以内に退職されたら、本当に困りものです。

昨年より新卒採用市場は難しくなっています。

パート・アルバイトでも採用が出来ない状態です。

中小企業（大企業でも同じ）にとって、優秀な新卒採用が企業の成長の鍵ですから、これからは新卒をいかに採用できるかが、これからの重要な課題になってきています。

企業内でも教育のコストを教育を受ける社員に一部（もしくは全部）負担させることは、必要な時代になった。と私個人的に感じておりますが、皆さんはいかがお考えでしょうか？

#### <経営のヒント>

親の過剰な庇護が結果的に、子供にフリーターを生む。

飼い主の過保護が、「馬鹿犬」のペットを生む。

企業では、経営者・上司の過保護が、ダメ社員を生む。

そして、その教育のコストを誰が支払うのか？

21世紀の家庭教育と企業教育の重要なテーマになりそうです。